

研究主題 「インクルーシブ教育」

～ありのままの他人を認める道徳教育の実践～

埼玉県立松伏高等学校

1 研究主題の設定理由

令和3年度から、本校校舎内に特別支援学校分校が設置されることとなった。本校生徒が特別支援学校分校の生徒と同じ校舎内で学校生活を行うことになり、今までには生じなかったエクスクルーシブ(排他的)な問題が発生することも懸念される。そこで、令和2年度の道徳教育を通じて、

- (1) 本校生徒が、障害のある生徒に対する理解を深め、自分以外の価値観に触れてほしい
- (2) 本校生徒と特別支援学校分校の生徒がお互いの存在を認め合い、共生できる学校を目指したい

ということを理由に主題を設定した。

2 研究の仮説

「MSP 松伏スーパープレゼンテーション」や障害者理解学習の実施により、

- (1) 他者の価値観や物事の見え方が、自分と同じではないことに自覚し、他者を尊重する生徒が増える。
- (2) 障害に対する理解が深まり、共生する上でできることを1つでも挙げるができるようになる。

3 研究の経過

10月 9日(金) 在り方生き方教育講座 (2学年)

【講師：鳥居徹也氏(夏見台幼稚園・保育園園主)】

11月27日(金) 障害者理解学習(LHR(道徳)の時間に絵本を用いた)及び事前調査 (全学年)

12月21日(月) 障害者理解学習(人権教育講演会) (全学年)

【講師：鏡味仙成氏(太神楽曲芸協会)】

MSP 松伏スーパープレゼンテーション (全学年)

12月22日(火) 障害者理解学習(アクティブラーニング) (1学年)

【講師：西澤香教諭(越谷西特別支援学校 特別支援教育コーディネーター)】

1月29日(金) 障害者理解学習(特別支援教育)及び事後調査(1、2学年)

【講師：西澤香教諭(越谷西特別支援学校 特別支援教育コーディネーター)】

4 研究の内容

(1) 11月27日(金) 障害者理解学習(絵本を用いた)(全学年)

絵本「みえるとか みえないとか」(ヨシタケシンスケ著、アリス館)を用いて、他者理解、障害者理解を目的とした授業を行った。後ろが見える宇宙人と宇宙を旅する人間の話である。自分自身とは違う「当たり前」を持つ人との接し方を考える上で効果的だと考え、この絵本を採用した。画像をアニメーション化し、4人の教員がセリフやナレーションを行って、紙芝居風動画を作成した。全教室でプロジェクターを活用して動画を視聴し、①絵本の主訴②自分とは違う「当たり前」を持つ人との接し方の2点について、生徒一人一人が仮説を立てた後にディスカッションをした。

	時間	内容	備考
6限		PC準備	各副担任がPC準備
	5分	概要説明、意識調査記入	意識調査配布・回収
7限	5分	動画(前半)を再生	PC・PJにて黒板に投影
	10分	ワークシート記入	動画終了後、自分の考えを記入
	10分	4、5人班でディスカッション	席はつけず、距離を保つ
	10分	クラス全体で共有	各班代表者が発表
	10分	動画(後半)を再生	PC・PJにて黒板に投影
	5分	感想記入	記入後回収



(2) 12月21日(月) 障害者理解学習(人権教育講演会)(全学年)

講師として太神楽師の鏡味仙成氏(太神楽曲芸協会)を招いた。識字障害がありながらも、自分の輝ける道を探して職に就き、日々技術を磨かれている方である。講演題目は「できることで輝く」、講演目的は障害者理解である。新型コロナウイルス感染対策として、1、2学年は体育館で受講し、3学年は教室にて中継映像で受講した。構成は、①太神楽披露②教員からのインタビュー③質疑応答の3部構成にした。障害を「一生付き合い続ける友達」のように捉え、「できること」前向きに努力し続ける姿は、多くの生徒の心を動かした。また、障害がある方に対しての向き合い方についても御助言いただき、来年度から設置される分校の生徒との共生方法についても学ぶことができた。



(3) 12月21日(月) MSP 松伏スーパープレゼンテーション(全学年)

8年目となる本校名物行事である。目的は言語活動の充実、他者理解及び他者尊重の態度の育成、人権感覚の育成である。立候補した5組7名の生徒が、興味関心があることについてプレゼンテーションを行った。内容は趣味(ゲームやアイドルの紹介)や楽器の披露、自己啓発(逆算力)と多岐にわたった。こちらは感染対策として、2学年が中継映像で鑑賞した。発表した生徒は、いずれも準備や練習を熱心に繰り返し、堂々としたプレゼンテーションを行うことができた。また、発表を聴いた生徒は、メモをとったりリアクションをとったりするなど、肯定的に傾聴する姿勢であった。プレゼンテーション終了後、全校生徒が発表者に対してメッセージカードを記入して送っ



た。発表者の魅力的な部分について取り上げて書く生徒が多く、他者を受容し理解する姿勢を感じることができた。

(4) 12月22日(火) 障害者理解学習(アクティブラーニング)(1学年)

目的は、対話をとおして(1)から(3)の内容を振り返り、分校の生徒との共生に向けて学びをまとめることである。知識構成型ジグソー法で実施した。目標を「本校の生徒と分校の生徒が安全安心に学校生活を送るための行動目標を作る」として、エキスパート班を5班(図参照)に振り分けた。

時間	内容	補足	
10分	流れの説明	事前に班分け済	
40分	エキスパート活動	ワークシート活用	
	A PC学習:障害について調べよう	A 情報1室	
	B 動画視聴:知的障害者の立場に立ってみよう	B 情報2室	
	C グループ:学校生活(行事)で起こる障害を考えよう	C 教室	
	D グループ:過去の学び(絵本,講演会)を振り返ろう	D 教室	
E 講話:特別支援学校の先生からアドバイスを頂こう	E 視聴覚室		
休	10分 HRへ移動、休憩		
2限	30分	ジグソー活動 > エキスパートの内容を各班でまとめる > その上で、来年度の行動目標を作る	ワークシート活用
	15分	クロストーク > 各班代表者が「行動目標」を発表する	ワークシート活用
	5分	感想記入、提出	提出

その中の1班は、越谷西特別支援学校の西澤香教諭を招き、講演会を行った。講演では、特別支援学校の授業風景の説明や、生徒からの質問に答えていただいた。YouTubeにアップされている、発達障害に関する動画を視聴する班を設けるなど、過去の学びを振り返る活動だけではなく、調べ学習や講演を混ぜることで、共生するためのイメージがしやすくなるように設計した。どのエキスパートも積極的に学び、その後のジグソー活動でも時間が足りなくなるくらい充実した活動が展開された。また、クロストークで挙げた行動目標を、各クラスの代表者が持ち寄り、学年全体としての、分校の生徒との共生に向けての行動目標を設定した。最終的には「臨機応変に助け合いながらコミュニケーションをとり、互いに過ごしやすい環境を作る」に決まった。目標を各クラスに掲示することで、今回の学びを踏まえて共生する意識を持ち続けたい。



(5) 障害者理解学習(講演会)(1,2学年)

越谷西特別支援学校の西澤香教諭を招き、講演会を行った。感染防止の観点で、1学年ごとに分けて実施した。内容は、①特別支援学校について②特別支援教育の種類③障害の特徴と疑似体験④障害の捉え方の4部構成で、特別支援学校の授業の内容や、普段は意識しないような障害に対する捉え方についてのお話を聞くことができ、来年度に分校の生徒と共生するイメージが一層深まったように感じた。



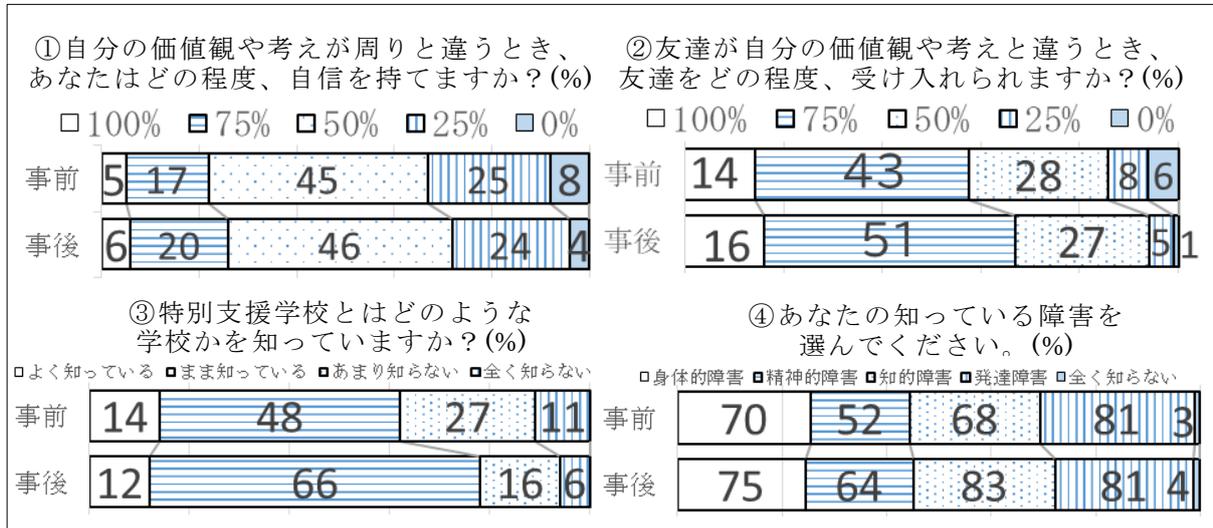
(6) 他者理解・障害者理解に関する事前調査、事後調査(全学年)

(1)を開始する前に事前調査を、(5)の終了後に事後調査を実施した。他者理解に関する質問項目では、突発的に重いテーマである質問をされると答えにくいと予測し、予備質問として「当たり前」が大きく違う人と鳥の比較を事例に出した。結果考察については後述する。

5 研究の成果と課題

(1) 成果

事前・事後の調査結果は下表のとおりである。他者と価値観が違っていても、自己受容、他者受容ができる生徒の割合が共に増加した。また、特別支援学校や障害の種類に対する認知度も増加した。



また、下図は生徒の感想を抜粋したものである。他者を尊重することや、障害者に対する理解を深めたことがわかる。1学年については、分校の生徒と共生する上での行動目標も立てることができ（4(4)参照）、来年度に向けたイメージも深めることができた。

- 11月27日 障害者理解学習(絵本) 感想抜粋
- ・もし皆同じすべてのことを把握しきっていたとしたら、人と人が関わり合い、助け合う意味がなくなってしまう。人と違うということはとても尊いことなのだを再認識できた。
 - ・自分の当たり前はあっても世界のみんが認める当たり前は存在しないのだなと思いました。だからといって関わらないのではなく、話を聞いたり、他人の目線で見たりする。
 - ・障害についてもっと知るべきだと思った。お互いに交流をし、話をしたほうが良いと思う。知らないことが多すぎてきっと距離が開いているのだと思う。
 - ・違う「当たり前」を持っている人でも考えることが同じこともあるのだなと思った。
- 12月21日 障害者理解学習(人権教育講演会) 感想抜粋
- ・「どんな人に対しても、1人の人として接することは人間として当たり前であって、障害を持った人にフォローをするのはいいけど、腫れ物扱いをするのは違う。」という考えにとても感銘を受けた。
 - ・障害で文字が読めなくても、勉強ができなくても、できることを探して、立派な仕事についてすごいと思った。
 - ・できないことがあればいろいろ研究したり、周りに助けを求めたりと1人で考え込まないことが大切だとわかった。
- 12月22日 障害者理解学習(アクティブラーニング) 感想抜粋
- ・まず助けるのではなく、そのまえに「お手伝いしましょうか？」と一声かけるべきだと思った。相手が何を求めているかをしっかりと見極めたい。
 - ・特別支援学校という存在をあまり知らなかったが、今回の学習でどのように接するか？などの不安が消えた。
 - ・グループの話し合いだけでも沢山の意見が出たので、人それぞれ考え方が違うことも実感できた。
 - ・今日の内容は障害者だけではなく、今一緒にいるクラスの子にも当てはめられるから、分校生が来てから変えるのではなく、明日から変えようと思った。
- 1月29日 障害者理解学習(特別支援教育) 感想抜粋
- ・自分たちと通ずることがあったり、自分たちよりも苦手が少し多かったりするだけなのかなと思った。すべてを分かり合うことが難しくとも、支え合っていきたい。
 - ・特別支援学校は、私が思っていたものと違っていたり、知らなかったりすることがたくさんあった。障害がある人も、私たちと同じ人間に変わりがないので、違う部分は受け入れて、差別はなくなってほしい。
 - ・「特別支援は」特別なものではなく、みんなに関係がある」という言葉がすごく胸に響いた。

(2) 課題

調査結果としては効果を感じられたが、あくまでも「そう考えている」だけの話である。大切なのは他者との関わりの中でどう実践するかである。今年度は、人の移動を制限する感染防止の為、残念ながら実践に移す機会を設けることができなかった。次年度は実際に分校の生徒が入学するので、お互いが過ごしやすい環境を共に作り合えるような活動をとおして、研究を進めたい。